

国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所長 優良業務表彰・優良業務技術者表彰 平成25年度 櫛田川水辺現地調査（植物）業務

河川水辺の国勢調査による絶滅種の再発見

中部コンサルタント部 小西 久充・石原 淳・森 啓彰

はじめに

国土交通省では、河川を環境という観点からとらえた定期的、継続的、統一的な基礎情報の収集整備を目的として、「河川水辺の国勢調査」を実施しています。本業務は、この河川水辺の国勢調査の一環として櫛田川における植物調査を実施しました。

本業務では、環境省や三重県のレッドリストに選定されている重要種 31 種を含む、121 科 667 種の植物を確認しました。ここでは、三重県絶滅種再発見についてのトピックと、植物を確実に調査・記録するための工夫について紹介します。

三重県絶滅種・アゼオトギリの再発見

春季調査において、三重県レッドデータブック*で「絶滅」として扱われてきたアゼオトギリと思われる植物を確認しました。そこで開花期の 8 月に近縁種サワオトギリとの違いを確認するための補足調査を実施するとともに、発注者および河川水辺の国勢調査アドバイザーの先生を通して三重県レッドデータブック改訂委員会に相談し、間違いなく本種であることをご確認いただきました。

県内での確認記録は 1966 年に採取された標本が最後であり、実に 47 年ぶりの再発見ということになります。

なおこの情報は、改訂作業中だった三重県レッドリストにも反映され、本種のカテゴリーは 2014 年 7 月に発表された最新版では「絶滅危惧 I A 類」に変更されています。



図1 確認したアゼオトギリ
(生育状況(左)、開花状況(右))

植物を確実に調査・記録するために

河川区域では、旧河道にできたたまりや窪地などの湿地に希少な種がよくみられます。そこで、事前にオルソフォト画像で植生を把握するだけでなく、地形が把握しやすい赤色立体地図を用いてたまりやワンド、窪地などの位置も把握したうえで調査を行いました。また調査時は、赤色立体地図を搭載した GPS を活用して希少な湿性植物が生育しやすい環境を確実に踏査しました。



図2 赤色立体地図の活用
(オルソフォト画像(左)では分かりにくい窪地などを赤色立体地図(右)で把握。GPSに搭載し確実に踏査を実施)

おわりに

「河川水辺の国勢調査」の結果は、河川整備や維持管理、河川環境保全のための基礎情報となるものですが、今回の発見は、河川のみならず地域の自然環境にとっても重要な情報であり、記者発表などを通して県民の皆様へ河川事業への理解を深めていただく機会にもなりました。

最後に、本業務の遂行にあたり、三重県レッドデータブック改訂委員会植物部会の先生方、国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所の関係者の皆様には多大なるご指導、ご協力をいただきました。ここに改めて御礼申し上げます。

*三重県環境森林部自然環境室編 (2006) : 三重県レッドデータブック 2005 植物・キノコ、(財) 三重県環境保全事業団、p.64、2006